

# 新折尾駅舎

# 消える 2階部分

## 左右非対称が特徴だが…

## 北九州市発表のデザイン案

北九州市は先日、年内にも解体工事に着手する予定の「JR折尾駅舎」の新駅舎デザイン案を公表したが、折尾駅舎が立体交差駅であることを示す最大の特徴である、二階部分は再現されていない。市は「バランスを考

えて左右対称にした」と説明。一方で地元からは「立体交差駅の証明。このアンバランスなデザイン無しに折尾の歴史は語れない」との声もあがる。

「大正五年に建てられた格式のある、歴史のある駅舎、これが私たちが次に目指す駅舎のイメージであります」。

十月十三日開催のイベント「ありがとう折尾駅舎」の中で、北橋健治市長が折尾駅舎デザイン案を満を持して公表した。

折尾駅は鉄道連続立体交差事業で、メイン改札口が新設される北口に移転する。当初の新駅舎イメージは現駅舎外観を全く考慮しない、ありふれた施設外観だった。今年二月、地元国体の「おりお未来21協議会」が北九州市とJR九州に、「折尾駅舎保全・活用に関する要望書」を提出。新駅舎を有する建造物」として

再現するよう求めていた。同協議会が示したイメージ図では、新駅舎外観は左右非対称案だった。市・折尾総合整備事務所によれば、新折尾駅舎のデザインについては大学教授などで構成する「新折尾駅周辺整備検討会」（公議は非公開）の第一回会合で協議。市が大正五年当時のデザインを忠実に再現する左右非対称案と、左右の鉄道高架部分との調和のとれた左右対称案の二案を示した。

### 「おりお未来21協議会」が要望したイメージ図



うわけではないが、建築基準法とのかねあいもあるという。

市議会に折尾駅舎の文化財指定などを求める陳情をしている「学園&地域交流ネットワーク」の蒔田加代さんは「折尾駅は日本最古の立体交差駅

市は大正五年当時の駅舎外観について「可能な限り再現する」との基本的な考え方を示している。新駅舎外観に左右非対称案を採用しなかった理由について折尾総合整備事務所は「現在の駅舎二階部分は鹿兒島本線があるための機能。新駅舎ではその機能は確保できる」と説明した。高架部分との関連で、二階部分の再現が絶対に来ないとい



現在の折尾駅舎



北橋市長が発表した新駅舎デザイン案